<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Title</td>
<td>公共料金価格の形成と財務的基金の役割 - ボンブライト「公益事業経営における料金価格の原理」を出発点として</td>
</tr>
<tr>
<td>Author(s)</td>
<td>矢島 基臣</td>
</tr>
<tr>
<td>Citation</td>
<td>一橋論叢 74(1): 16-26</td>
</tr>
<tr>
<td>Issue Date</td>
<td>1975-07-01</td>
</tr>
<tr>
<td>Type</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>Text Version</td>
<td>publisher</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/1783">http://doi.org/10.15057/1783</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
公共料金価格の形成と財務的基金の役割

問題への展望

矢島基臣

一橋論叢 第七十四巻 第一号 (16)
公共料金価格の形成と財務的基金の役割

の要請を実現させるような、地方公共団体における料金価格設定と、その要請を抑制する一方で、これらの要請は相互の関係で考えられる。したがって、これら相互の関係を解釈するためには、料金価格の決定と関連させて、その問題の解決に寄与すべきである。以上に述べたような要請の関係を解釈するためには、まず、これらの要請がどのように相互に関連しているかを考慮しなければならない。一方で、地方公共団体における料金価格設定と、その要請を抑制する一方で、これらの要請は相互の関係で考えられる。したがって、これら相互の関係を解釈するためには、料金価格の決定と関連させて、その問題の解決に寄与すべきである。以上に述べたような要請の関係を解釈するためには、まず、これらの要請がどのように相互に関連しているかを考慮しなければならない。
一橋論叢 第七十四巻 第一号（18）

注１：われわれは、料金価格決定にかかわって、ここで指摘しているような、消費者の利害のみではなく、さらに、これと地域住民との利害関係が、複雑にからみ合ってくるという事実を無視するわけにはいかないであろう。たとえば、地域住民の側から、いわゆる社会的費用の一部を負担することを企業経営が求める場合、独占力もあった企業経営は、その費用化を、留保されている利益の企業外への流出によってはなくして、価格を引上げ、これを消費者への負担として拡散させることによって解決されようとする可能性が強い。その結果、地域住民の利害と消費者の利害との部分的抗争を発生させ易い。この意味で、公益事業の実現をはかる過程は、同時に、消費者利益と地域住民の間に発生する部分的抗争を解決させてゆく処置でもなければならなくななるであろう。公益事業経営の場に浮かび上がってくる問題の一つの落とし目を同時に解決させなければならないところに求められる。

二 キャッシュティ・コストおよび資本の費用の見積りと埋没原価の問題

いわゆるキャッシュティ・コストの見積り基準いかんにせよ、料金価格に組み込まれるべき費用の部分に相違が現れてくるために、低い料金価格を求める消費者の要求を満たすことは、キャッシュティ・コストの見積りの基準いかんにせよ、料金価格を定める方法で、料金価格、コストともに、事実上原価に対する価格の上昇を求める方法である。これにより、投資家が投資の必要性、相違を勘案しながら、市場での価格を定める方法である。これにより、投資家が投資の必要性、相違を勘案しながら、市場での価格を定める方法である。
公共料金価格の形成と財務的基金の役割

これに対して歴史的原価ではなく、実際原価（Cost of Service）によってキャパシティ・コストの見積りがなされ、さらに財務的基金の役割が問題である。その投資資産の消費者にとっての価格がベースであるために、最終投資資産を、通常、歴史的原価化させる必要がある。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをえない。したがって、この場合において、その価格を決定させ、少なくとも投資資産の一部をキャパシティ・コストの見積り額とし、実際原価化せざるをならない。}

19
キャピテリ・コストの料金価格への組み込みは、その費用の水準を示すものとして利用しようとするならば、その料金価格によって、全部原価を回収できる足掛かりの条件を満たすために、特別の判断によって、料金価格の中に組み込まれるべき資本の費用をかさ上げさせる措置がとられるわけではないであろう。

資本の費用の見積りに関しては、かかるような技術的な問題に対して検討を試みることで、見積られた資本の費用を、その料金価格に組み込むのが、それに抵抗するものである。キャピテリ・コストの場合の同様に、その上に一定の費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要望を満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要望を満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要求に満たせようとするならば、キャピテリ・コストの費用を求める消費者の要
（21） 公共料金価格の形成と財務的基金の役割

種の基金の、社会的管理を実現できる機関として、公益事業の管理者である公益事業委員会に、ひとつの期待を寄せることがある。また、私的企業経営がたとえばその価格決定に関しては、地域住民の利害を拡大させた場合、消費者あるいは地域住民の利益を拡大させた方向に利用できる可能性を持っている機関としては、監査役会に対する期待を高まる。それらの価格決定に関しては、監査役会に対する期待を高まる。それらの価格決定に対しては、監査役会に対する期待を高めるために、監査役会についての期待を高めるわけではない。これにより、監査役会が存在する役割を描くことができれば、監査役会に関する期待を高めることが期待される。

（注）私的企業経営にいても、それに使用できる固定設備をかかえて使用を減らすことを余儀なくされる場合を含む。
改めて、私の企業経営の枠の強さを思わせぬはおかしな一定の基金の形成とその社会的管理。資本の収入と支出とのアンバランスが発生し、財務流動性が極度に悪化を示している当該企業経営からはみれば、そのような価値判断を下しているかという意味で、きわめて重大的な意義をもって、時にはその価値評価かんによって、企業経営の主体が生かされるはずである。現状の価値評価の不確定性は、企業経営の投資計画における戦略的選択を示し、販売所得の流れをより早く発生させるプロジェクトを一旦価値あるものと考えるアプレイゼーションシステムにもとづいて組立てられる可能性を発生させ易い。いわゆる社会的費用の発生が、所有権に特有のこのような
計算的思考と深い理解がなければ問題であると考える。基金の形成が前に述べたように、戦略的に運用するためには、基金の成長を図ることが必要である。しかしながら、運用の結果の成長を図るためには、投資戦略の設定が重要である。投資戦略の設定は、市場の動向や投資機会の見極めに基づいて行われ、成長目標を達成するための手段として有効である。投資戦略の設定は、市場の動向や投資機会の見極めに基づいて行われ、成長目標を達成するための手段として有効である。
周知のように、西ドイツの監査役会は、従業員代表の
外に、大企業の重役、銀行および保険会社の重役、ある
いは株式会社ではない大企業の重役、大学教授あるいは
大きな街の市長などによって構成されている。彼等があ
る領域から選ばれ、単に専門分野に関してはかり
でなくその他の分野についても、その経験と判断力
doを生かして共同して仕事の遂行にあたりる人々である。
この意味で、たとえば消費者なりあるいは地域住民の側
から社会的費用の発生を回避させるために、監査役会の
構成員に働きかけて、事前に投資計画の内容に対して計
を作ることとは、十分に可能性をもつ事柄と考えられ
ているが、職として消費者がみずからの利益を
の内部留保金としてそのに蓄積されているであろう資金
部分を、価格引下げの形で消費者側に還元させてゆく可
能性は、決して非無とはいいえないであろう。
もちろん、企業経営の場にある場合、労働者側の利益
に重ねて、新し料金価格の体系が示されたとき、公益
事業経営のスポンサーシップと消費者側の間に、何が
合理性の存在していることを指摘することができる。
むすび
そこで、新し料金価格の体系が示されたとき、公益
事業経営のスポンサーシップと消費者側の間に、何が
合理性の存在していることを指摘することができる。
むすび
公共料金価格の形成と財務的基金の役割

いうこと、あらためて人々に想起させずにはおかない
そうである。料金価格の決定問題の中には出される困難は、
そこで所与のものとして存在しているわけではない「公
正」あるいは「合理的」ことの基準を、われわれ
自身の手によって見出しなければならないところに存在
している。

いまでもなく、その「所有」の現在価値を最大にさ
せることが求められていない投資家は、高い資本の費用を
料金価格の中に計上させたいとする根強い要求を持ち続
けている。他方、消費者側にとって料金価格は一種の要
用であるため、これを出来得るかぎり高い水準に抑制
させたいと考える強い要求が存在している。かりに一方
の当事者がそれを主張を百パーセント実現できるのでなければ
れは満足しないとするならば、料金価格の決定は、不可
能ならざるをえないであろう。この意味で、そこで一
との決定を作り上げようとするならば、相反する主張
の道が探されなければならないであろう。さらに、
ふたつの利害関係団体の利害が尖端な対立を示す場合
この「賢明なる妥協」への過程は、複雑なジグザグの歩

25

unnecessary text